

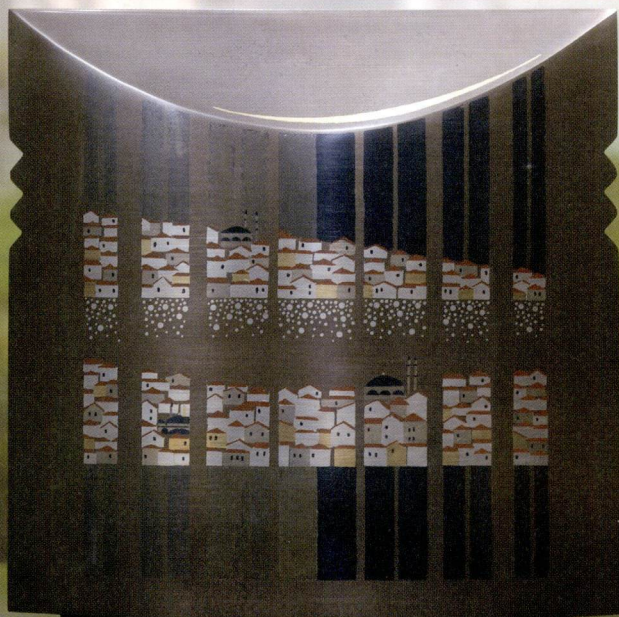
加賀象嵌

中川衛 美の世界

— 新たな伝統を創る —



MAMORU NAKAGAWA



象嵌銀花器
夕映のイスタンブール

2010年制作・HD作品/カラー/39分

伝統文化シネマとは

人間国宝の卓越したわざ、各地域に伝承されてきた民俗芸能・行事は、時代を超えて私たちに語りかけてきます。このような優れた無形の伝統文化を、「伝統工芸の名匠」「伝統芸能の粋」「民俗芸能の心」シリーズとして記録映画を制作しています。

Pola Foundation for the Promotion of Traditional Japanese Culture
公益財団法人 ポーラ伝統文化振興財団

〒141-0031 東京都品川区西五反田2-2-10 ポーラ第2五反田ビル
TEL 03-3494-7652 / FAX 03-3494-7597 <http://www.polaculture.or.jp>

中川 衛 美の世界

—新たな伝統を創る—

Profile

中川 衛 なかがわ まもる

1947年(昭和22)石川県生まれ。金沢美術工芸大学卒業。金沢で1974年より高橋介州に師事。1979年第26回日本伝統工芸展初入選。1988年第35回日本伝統工芸展「朝日新聞社賞」受賞。1996年金沢美術工芸大学教授。2004年伝統文化ポーラ賞優秀賞受賞。同年、重要無形文化財「彫金」保持者認定。2006年東京三越本店初個展。2008年メトロポリタン美術館に作品収蔵される。2009年紫綬褒章受章。2010年大英博物館に作品収蔵される。

企画:公益財団法人ポーラ伝統文化振興財団
製作:株式会社 毎日映画社
監修:白石 和己(山梨県立美術館館長)

●製作スタッフ

プロデューサー 橋本 淳
監督 黒崎 洋一
撮影 佐々木 博司
照明 山田 和夫
録音 塚本 宣威
撮影助手 櫻井 秋彦
助監督 柿沼 智史
構成 竹内 弘幸・黒崎 洋一
トルコロケ
コーディネーター KUDRET PEKIN
アメリカロケ
コーディネーター 松田 裕子・柳光 賢二
作曲 山崎 茂之
ナレーション 田中 秀幸
EED 堀 美樹子
MA 門倉 徹(東京テレビセンター)

●撮影協力

アナトリア文明博物館
金沢卯辰山工芸工房
株式会社 ポーラ
コーコラン美術大学
財団法人 宗桂会
財団法人 藩老本多蔵品館
財団法人 前田育徳会
式年遷宮記念神宮美術館
文化庁
メトロポリタン美術館
(五十音順、敬称略)

山梨県立美術館館長 白石 和己

重要無形文化財「彫金」保持者(人間国宝)の中川衛は、金沢の伝統である加賀象嵌の技術を受け継ぎ、さらに技術や表現方法を発展させ、現代感覚あふれる作品を生み出している作家である。

彫金は鑿(う)彫(ち)って模様を表したり、地金を糸鋸や鑿で文様に切り取ったり、象嵌(か)といって、地となる金属に別の種類の金属を嵌め込んで文様を表す技法のことで、古くから行われている。象嵌は中近東で生まれたとされており、日本では、古墳からの出土品にすでにこの技術が見られる。その後、江戸時代には鐸などの刀装具、釘隠などの室内装飾、鎧などの馬具等さまざまな分野に広く用いられ、精緻な技術が発達した。加賀藩では十七世紀のはじめころ、前田家によって京都から金工家が招かれ、象嵌技法が始められたという。その後、多くの名工を生み出し、加賀象嵌として広く知られるようになった。近代になると社会情勢の変化などにより、次第に制作者の数は減少していった。

二十代のころ、江戸時代の加賀象嵌の鎧の名品に出会って、その魅力にひきつけられた中川衛は、最後の加賀象嵌師と言われていた高橋介州に弟子入りし、懸命にその技術を学んで伝統技術を習得すると共に、表現を研究して独自の世界を創りだすようになった。

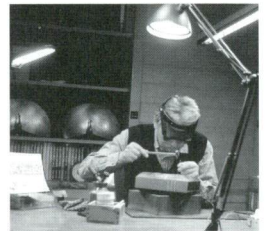
この映画は、作品の構想から、トルコ・イスタンブールでのスケッチや、そこから工芸デザインとして作り出す過程、加賀象嵌の特色の一つ、重ね象嵌の息をのむような微妙で精密な制作の様子、仕上げ処理など、作品の完成に至る過程を軸に、師・高橋介州との関わり、制作に対する中川の考え方、さらには海外での高い評価、後継者養成に熱心に取り組む様子など、多面的な活動をわかりやすく映像で捉え、作品の魅力や中川衛の人間像などを伝えている。



トルコ イスタンブールで
作品制作のためのスケッチをする



自ら鑿をつくる



ルーベをつけて
家並みの窓の意匠を鑿で彫る



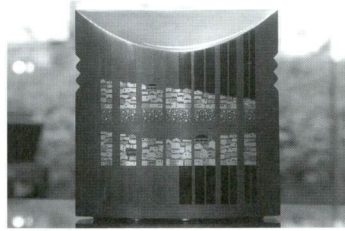
師・高橋介州が遺したルーベで
彫りを確認する



色がかぶらないように、
着色前に大根おろしをつける



象嵌が完成した作品に着色する



完成作品
象嵌鍍銀花器 タ映のイスタンブール



金沢卯辰山工芸工房で
後進に講義を行う



コーコラン大学(アメリカ ワシントン)にて
加賀象嵌のワークショップを行う

映画内容

平成16年、戦後生まれで初の重要無形文化財「彫金」保持者に認定された加賀象嵌の第一人者、中川衛氏。伝統的な技法を礎に、金属を幾重にも重ねて精緻な美を生み出す「重ね象嵌」の技術を発展させた。革新的で叙情性あふれる作品は新しい風となって現代人に感動と癒しを与え、新たな伝統を創る「中川 衛 美の世界」。

映画は象嵌の「ぞ」の字も知らなかった一人の若者が、なぜ全て自ら材料や道具を作り、更に二足の草鞋で11年間苦心惨憺の末、人間技の極限ともいえる精緻な美を創りだすことができたのか…出会いは時に、人の運命を予期せぬ方向へ誘う。偶然見てしまった「鎧」のデザイン、偶然訪れた師・高橋介州への弟子入り…。人智を超えた研究心と集中力、そして頑健な肉体は、時と共に感性を磨き上げ象嵌を極致の美の高みへと押し上げていく。次世代の若者を育て、世界の象嵌を目指すのが今や使命となった。今日も鑿を打つ音に、金工作家・中川衛の矜持が伝わる。

本作は作品が出来上がるまでの工程を追いながら、加賀象嵌のデザインと技術に投影される氏の生き様を描く。